

使用教科書	財務会計Ⅰ (TAC出版)	副教材等	全商簿記1級会計論点別NEWステップアップ問題集 (TAC出版)
学習の到達目標	知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析し、表現することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	単元名	基礎力			思考力				実践力				活動内容・評価規準			
		挨拶・礼儀 (基礎的人間力)	思考・実践の材料や視点となる学力 (知識)	コミュニケーション能力	情報収集力	想像力・必要を予測する力	課題を見出す力	客観的に物事を見つめる力 (メタ認知)	論理的思考力	情報分析力 (批判的思考力 (クリティカルシンキング))	創造する力	情報活用能力		課題を解決する力	未知を切り拓くイノベーション能力	主体的な行動力
一学期															※1学期は簿記の内容を週6時間で履修	
二年 (実践力養成期)	11	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業会計と会計公準 第2章 企業会計制度 第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表の概要 第4章 資産の分類と評価 第5章 負債の分類 第6章 現金預金 第7章 金銭債権 第8章 電子記録債権・電子記録債務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※2学期の中旬を目処として簿記4単位とあわせて週6時間で履修 【知識・技術】 財務会計の概要について理解している。 【思考・判断・表現】 財務会計及び関連する法規と基準の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 財務会計の概要について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	12	第9章 棚卸資産 第10章 有価証券 第11章 有形固定資産 第12章 リース取引 第13章 無形固定資産 第14章 研究開発費とソフトウェア 第15章 引当金 第16章 純資産 (その1) 第17章 純資産 (その2) 第18章 純資産 (その3) 第19章 貸借対照表の作成方法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
		第3編 損益計算書 第20章 損益計算書の概要 第21章 損益計算の基準 第22章 役務の提供と工事契約 第23章 掛け代金の割引 第24章 外貨建取引 第25章 法人税と税効果会計 第26章 損益計算書の作成方法 第27章 その他の財務諸表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 財務諸表の作成に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 財務諸表の作成について自ら学び、適正な財務諸表による適切な会計情報の提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
三年 (思考力養成期)	123	総合演習 ※「第4編 財務諸表の活用」及び「発展 連結財務諸表」は2年次10月に財務会計Ⅱで扱う。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 これまでの学習内容を振り返り、理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 これまでの学習内容を振り返り、財務諸表の作成に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 これまでの学習内容を振り返り、適正な財務諸表による適切な会計情報の提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・事実的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析し、表現している。	・課題レポート ・グループでの話し合い (発言内容) や発表等 ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける話し合い (参加態度) ・取組の自己評価 (目標設定含む) の内容

使用教科書	最新情報処理 新訂版 Advanced Computing (実教出版)	副教材等	全国情報処理検定試験問題集 情報処理 (実教出版) 全国情報処理検定試験問題集 情報基礎 (実教出版) 全国ビジネス文書検定試験問題集2級 (実教出版) 全国ビジネス文書検定試験問題集1級 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに関わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力		思考力						実践力			活動内容・評価規準		
			読解・礼儀(高貴人徳力)	思考・表現の材料や根拠となる学力(加速)	読解能力	情報活用能力	想像力・未来を予測する力	課題を発見する力	客観的に物事を見つめる力(メタ認知)	論理的思考力	資料やデータ(表やグラフ)を読み取る力	創造する力	情報活用能力		課題を解決する力	未来を切り拓くキャリア設計力
一年(基礎力養成期)	4	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の意義 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 - 企業における適切な情報処理について理解する。 【思考・判断・表現】 - 情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見だし、解決する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	6	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 - コンピュータシステムと情報通信ネットワークについて実務での活用即して理解し、関連する技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 - コンピュータシステムと情報通信ネットワークに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、課題を解決する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 - コンピュータシステムと情報通信ネットワークについて自ら学び、適切な情報の活用即して主体的かつ協働的に取り組むことができる。
一年(思考力養成期)	9	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整理・検索・抽出	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 - 企業における情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 - ビジネスに関する情報を統計的に集計、分析し、科学的な根拠に基づいて解決することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	11	4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 3節 応用文書の作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 - 企業において文章の表現について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 - 企業において文書作成の課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 企業におけるビジネス文書の作成を自ら学び、企業においてビジネス文書を適切に作成することに主体的かつ協働的に取り組むことができる。
一年(実践力養成期)	1	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 - プレゼンテーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 - ビジネスにおけるプレゼンテーションの課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決するプレゼンテーションの技法を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 - プレゼンテーションについて自ら学び、適切な情報の伝達に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・授業への取組 ・問題集、ワークシート ・単元テスト、定期考査
思考・判断・表現	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに関わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	・授業への取組 ・問題集、ワークシート ・単元テスト、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業への取組 ・問題集、ワークシート ・課題の取組状況、提出状況

使用教科書	財務会計Ⅱ (TAC出版) (財務会計Ⅰ (TAC出版))	副教材等	全商財務諸表分析検定論点別ステップアップ問題集 (TAC出版) 日商簿記2級テキスト・トレーニング (TAC出版)
学習の到達目標	知識・技術 副教材等について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	思考・判断・表現 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて確信的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営活動を分析することができる。	主体的に学習に取り組む態度 会計責任を重んずる方向を自ら目指し、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計処理の提供と倫理的な法則に準拠した行動の取組に取り組むことができる。

学年	学期	月	単元名	基礎力				思考力				実践力				活動内容・評価規準
				知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
二年(思考力養成期)	1学期	4	第2編 金融商品 第4章 金融商品 第5章 外貨建取引 第6章 デリバティブ取引	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・外貨換算の意義、為替換算と為替差損益について理解し、財務諸表に正しく記載できる。 【思考・判断・表現】 ・金融商品における現貨と現物の考え方を将来のキャッシュ・フローの価値を計算し、評価できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・金融商品、金融負債を正しく評価し、財務諸表の作成に主体的・協働的に取り組むことができる。
		5	第3編 収益と費用 第7章 様々な商品売買取引 第8章 工事契約	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・様々な商品売買取引の流れについて理解できる。 【思考・判断・表現】 ・収益・費用に付する取引について考え、正確な分岐を判断し、財務諸表が作成できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・企業における取引から正確な財務諸表に必要な書類を作成するために各協定を正しく分岐し、正しい計算処理を主体的・協働的に取り組むことができる。
		6	第4編 有形固定資産と無形固定資産 第9章 有形固定資産 第10章 リース取引 第11章 研究開発費とソフトウェア 第12章 固定資産の減損	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2学期	7	第5編 固定負債 第13章 社債 第14章 退職給付会計 第15章 資産除去債務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・社債を発行してから償還するまでの会計処理について理解できる。 ・退職給付の算定や年次資産・退職給付費用について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・資産除去債務の会計処理について考え、認識できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・社債について自ら考え、正しく分類し、適切な会計手続きができる。
		9	第6編 純資産 第16章 純資産 第17章 新株予約権 第18章 ストック・オプション 第19章 分配可能額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・純資産と繰上税金資産・繰上税金負債を理解できる。 ・新株予約権やストック・オプションについて理解できる。 ・剰余金配当の分配可能額を計算できる。 【思考・判断・表現】 ・企業結合会計の計算を考え、把握することができる。 ・合併会計、支配の接点の意義と支配権移時の処理について理解し、必要性を判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・純資産と繰上税金資産を算出するように主体的に取り組むことができる。
		10	第10編 財務諸表分析 第27章 財務諸表分析 ※「財務会計Ⅰ」の教科書も使用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・四半期報告書の概要と留意点について理解できる。 ・半導体や純資産など特殊の判断材料について理解できる。 ・企業価値の算定と二つの考え方の理解できる。 ・企業価値を割引キャッシュ・フローにもとづいて正しく計算することができる。 ・会社法および金融商品取引法にもとづいて監査のしくみを理解できる。 【思考・判断・表現】 ・財務諸表を活用し、企業グループの状況が把握できる。 ・財務諸表を活用し、株価が変動するかどうかを判断でき、企業価値を正しく評価することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・企業会計人として高い倫理観を養うように主体的に取り組むことができる。
	3学期	11	第7編 税効果会計 第20章 税効果会計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・税効果会計の意義や取組について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・法人税を考慮し、税効果会計の必要性を判断し、把握することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・企業会計と税効果の取組について理解し、法人税等がどのようにして計算されているのか、主体的に学習に取り組むことができる。
		12	第9編 企業集団の会計 第22章 企業結合会計 第23章 連結財務諸表 (その1) 第24章 連結財務諸表 (その2) 第25章 連結財務諸表 (その3) 第26章 持分法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・合併会計、支配の接点の意義と支配権移時の処理について理解できる。 ・税効果会計の意義や取組について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・自分の立場により、支配権移までの段階取得・支配権移後の追加取得・子会社株式の一部売却の取引が支配関係にどう影響したかを判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・連結財務諸表の作成方法について自ら学び、正確に作成しようとして取り組むことができる。
		1	第11編 監査と職業会計人 第28章 監査と職業会計人 演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・監査のプロセスと監査手続きについて理解できる。 【思考・判断・表現】 ・監査意見と監査報告書について理解し、その内容を把握することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・監査・公認に関する法規について理解し、会計を担う者としての社会的役割を身に付け、主体的に取り組むことができる。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	●財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・実践的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・單元テスト、定期考査、課題実力考査
思考・判断・表現	●企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて確信的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営活動を分析しようとしている。	・課題レポート ・グループでのディスカッションや発表等 ・小テスト、單元テスト、定期考査、課題実力考査
主体的に学習に取り組む態度	●会計責任を重んずる方向を自ら目指し、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計処理の提供と倫理的な法則に準拠した行動の取組に取り組むことができる。	・ゾーンの記入状況 ・課題の取組状況と進捗状況 ・結果報告、グループでのディスカッション (参加態度) ・最終の自己評価 (目標設定含む) の内容

使用教科書	原価計算 (TAC出版)	副教材等	全商原価計算論点別ステップアップ問題集 (TAC出版) 全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級原価計算 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる物として、課題に対処することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学年	学期	月	単元名	基礎力			思考力					実践力					活動内容・評価規準				
				理解・表現力	思考力	コミュニケーション能力	理解力	想像力	批判的思考力	創造的思考力	問題解決力	協働力	発表力	実践力	主体的に取り組む態度	協働力		発表力	実践力		
二年	一学期	7	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記の勘定連絡 第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費 第5章 労務費 第6章 経費																	※4月～6月は、「財務会計Ⅱ」の内容を週7時間で履修 【知識・技術】材料費・労務費・経費の消費高を計算及び記帳に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。また、予定価格法を用いる理由など合理的な原価計算の考え方を理解している。 【思判表】なぜ、予定価格を用いるのか、資金の支払いと消費はどう違うのかなど合理的な判断法はどのようなものなのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】原価の費目別計算について関心をもち、自ら進んでまとめたり、問題演習に取り組んだりする。また、疑問点については粘り強く調べたり、積極的に質問したりする態度が見られる。	
			第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算と減損・仕組の発生など																		【知識・技術】原価の部門別計算と製品別計算に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。また、各種原価計算の方法の特徴について理解している。 【思判表】なぜ、製造間接費は予定配賦するのか、工程別計算を行うのかなどについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】原価の部門別計算と製品別計算について関心をもち、自ら進んでまとめたり、問題演習に意欲的に取り組んだりしている。
			第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社工場間の取引																		
二年	二学期	9 10 11 12	第5編 標準原価計算 第14章 標準原価計算 (その1) 第15章 標準原価計算 (その2) 第6編 直接原価計算 第16章 直接原価計算 (その1) 第17章 直接原価計算 (その2)																【知識・技術】標準原価計算や直接原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 【思判表】なぜ、原価標準を設定するのか、差異分析により何がわかるのか、直接原価計算においては、なぜ変動費だけで計算するのかなど原価管理や利益計画について理解しようとしている。 【主】標準原価計算や直接原価計算を利用した原価情報の活用について関心をもち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組んだりする。		

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・実践的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・単元テスト、定期考査、総括実力考査
思考・判断・表現	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づいて創造的に課題に対処する力を身に付けている。	・課題レポート ・グループでのディスカッションと発表等 ・小テスト、単元テスト、定期考査、総括実力考査
主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法理と基準を適切に活用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用を主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・発表態度、グループでのディスカッション (参加態度) ・取組の自己評価 (目標設定含む) の内容

使用教科書	ソフトウェア活用 (実教出版)	副教材等	全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報部門1級 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を見出し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創意的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用について主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力			実践力			活動内容・評価規準	
			知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
一学期	4	第1章 企業活動とソフトウェアの活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ビジネスにおけるソフトウェアの活用について理解しているとともに、関連する知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ビジネスにおけるソフトウェアの活用と目的について認識し、企業活動と関連付けて考え判断し表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスにおけるソフトウェアの活用と進化について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	5	第2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ネットワークの構成に必要なハードウェア、ソフトウェアとその設定に関連する知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ネットワーク構築に必要なハードウェア、ソフトウェアを適切に選択でき、適切な判断に基づくデータの保護やセキュリティ管理の基準を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ネットワーク構築に必要なハードウェア、ソフトウェアについて、積極的に理解や表現に取り組む。データの保護やセキュリティ管理の基準を身に付けようとする主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	6 7	第3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 企業活動の改善に対する需要を分析し、科学的な根拠に基づいて、表計算ソフトウェアを活用して、情報を集計・分析するとともに、その結果を表現し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 表計算ソフトウェアの活用について自ら学び、情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
二学期	9 10	2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーション自動化 3節 手続きの自動化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 財務情報や販売情報の分析方法、試行に関連する技術を身に付けている。マクロ機能を用いた手続きの自動化についての知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 財務情報や販売情報の分析結果から、企業の財政状態や経営成績、販売動向などを判断でき、表計算ソフトウェアを活用して分析結果を的確に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 財務情報や販売情報に関心を持ち、表計算ソフトウェアの機能を利用した分析業務に積極的に取り組み、自ら進んで知識・技術を身に付けようとする主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	11	第4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化 4節 データベースの構築 5節 SQLの操作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 データベースの役割と仕組み、構造やリレーションシップの意味を理解している。テーブル・クエリ・フォーム・レポートの機能と関連について、SQLの文法を理解した上で操作の技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 業務の特性に合わせて、データベースの効果的な活用方法を判断でき、処置の内容によってマクロ機能やSQLを適切に使い分けすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスにおけるデータベースの活用に関心を持ち、知識・技術を積極的に身に付けようとする主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	11 12	第5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 2節 販売管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 グループウェア、販売管理、給与管理などのソフトウェアについて、そのしくみや活用のメリットを理解し、適切に活用する知識・技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ビジネスにおける情報の一元管理や情報の共有の重要性を理解した上で、適切な業務処理ソフトウェアを選択して、効率的な活用を思考することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスにおける情報の一元管理や情報の共有の重要性を理解した上で、適切な業務処理ソフトウェアを選択して、効率的な活用を思考することに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
三年(実務力養成期)	1 2 3	第6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 3節 情報システムの開発設計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 システム開発における代表的な開発モデルと開発手法について、基礎的な知識・技術を習得している。アルゴリズムの基本を習得し応用的な活用技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 システム開発の単純や複雑モデルを理解し、各手順の目的や開発の内容を適切に説明できる。データ処理の目的に応じた処理を自ら考え、アルゴリズムなどに表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 システム開発に興味を持ち、その設計や作成の方法を積極的に学んでいる。ソフトウェアの特色を生かした学習に積極的に取り組み、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・事実的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・問題解決力や応用能力を問う小テスト
思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を見出し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創意的に解決しようとしている。	・課題レポート ・グループでの話し合い(発言内容)や発表等 ・小テスト、問題解決力考査、応用考査、单元テスト
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用について主体的かつ協働的に取り組むようとしている。	・ノートの内容確認 ・授業の参加状況や発言状況 ・授業態度、グループにおける話し合い(参加態度) ・取組の自己評価(日記や振り返り)の内容

使用教科書		副教材等	総合実践「同時同業法を中心として」三訂版(実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学年	学期	月	単元名	基礎力				思考力				実践力				活動内容・評価規準		
				力発揮・礼儀・基礎入道	思考・実践の材料や根拠となる学力(知識や技能)	コミュニケーション能力	情報取集力	想像力・未来を予測する力	課題を発見する力	力客観的に物事を見つめる力(メタ認知)	論理的思考力	情報分析力(批判的思考)	創造する力	情報発信力	課題を解決する力		設案を切り拓くキャリア	主体的な行動力
三年(実践力養成期)	一学期	4 5	総合実践の基礎 ・総合実践の学習について ・対応の心得	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や適切な方法、業務についての基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 様々な場面における適切なコミュニケーション方法や合理的な業務遂行方法を、基礎的な知識をもとに自ら考え、判断し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 総合実践の基礎的・基本的な事項について、自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
		6 7	・通信文書の作成 ・代金の支払い															
三年(実践力養成期)	二学期	9 10	基本取引 ・取引の仕組み ・仕入取引 ・販売取引 ・取引のまとめ(会計処理)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 ビジネスにおける各種取引について、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ビジネスにおける各種取引について、実務に即して理解し、総合的に思考・判断・表現し、改善方法を考える。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスの実務について自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>	
		11 12																
三年(実践力養成期)	三学期	1	取引演習 ・取引の仕組み ・総合取引演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 ビジネスにおける取引について、総合的に理解しており、関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ビジネスの実務における課題を発見し、根拠に基づき課題への対応策を考案し、改善している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスの実務について自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>	

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・単元テスト・定期考査
思考・判断・表現	ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・授業、演習への取り組み ・単元テスト・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業、演習への取り組み ・営業日誌の記入

使用教科書	商品開発と流通(実教出版)	副教材等	商品開発と流通 準拠問題集(実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創作的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力				実践力				活動内容・評価規準		
			情報収集力	コミュニケーション能力	問題発見力	課題設定力	情報活用能力	批判的思考力	創造力	実践力	主体的な行動力	協働力				
三年(基礎力養成期)	4 5	1 商品開発と流通の概要 2 商品開発と流通の歴史 3 商品と流通との関わり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・商品開発と流通が一体のものであることを理解している。 ・『商品開発と流通』の学習内容について説明している。 ・現在市場における商品開発と流通の概要について理解している。 ・商品開発の流れを理解している。 【思考・判断・表現】 ・商品開発の概要を整理して、商品開発の意義と課題を説明することができる。 ・商品開発の手順とともに、学習計画が立てられている。 ・商品と流通との関わりについて、具体的な事例と関連付けながら、思考できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済や消費者の動向について自ら学び、主体的かつ協働的に学習に取り組んでいる。
		1 商品開発の企画 2 市場分析と競合店との分析 3 市場調査 4 商品コンセプトの決定 5 商品企画の提案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三年(思考力養成期)	9 10	1 事業計画の立案 2 事業計画の立案 3 流通計画 4 プロモーション計画 5 事業計画書の作成 6 経営・事業計画の立案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・事業計画の目的に合わせて、一歩の成長を理解している。 ・協働の決定方法を理解している。 ・無難なことに協働に動くことには慣れている。 ・流通チャネルの特性と特徴から、流通計画について理解している。 ・商品の企画について理解している。 ・企画におけるプロモーション活動の事例を取り上げ、それぞれの特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ・科学的な根拠に基づいて事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画を立案できている。 ・企画の事例を取り上げられている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事業計画の立案について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、事業計画を主体的かつ協働的に作成している。 ・プレゼンテーションに必要な技法を用いて、表現活動が行えている。
		1 商品の開発 2 プロトタイプ 3 商品とデザイン 4 パッケージデザイン 5 実習 ボスターデザイン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三年(実践力養成期)	1	1 商品開発の概要 2 セールス・プロモーション 3 商品開発と流通に関する新たな課題 4 商品開発の新たな展開 5 商品開発の新たな展開・流通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・新製品開発におけるプロセス、役割等を理解している。 【思考・判断・表現】 ・企画の事例を取り上げ、顧客の購買心理に基づいたセールスプロモーションが行われていることに気付いている。 ・商品の販売について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・流通とプロモーションについて、自ら学び、経済や消費者の動向を踏まえ、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・科学的な根拠に基づいて、実習計画を立案し、実施後に課題を見つめ、改善している。 【知識・技術】 ・情報システムの進化が協働的・高効率な流通に結びついていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・企画の事例を取り上げて、デザイン思考の商品開発について理解できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・企画の事例を取り上げて考察できている。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・単元テスト、定期考査、確認テスト
思考・判断・表現	商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創作的に解決しようとしている。	・授業への取り組み ・単元テスト、ワークシート、レポート
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業への取り組み ・諸事録、ワークシート

使用教科書	グローバル経済 (実教出版)	副教材等	グローバル経済準拠問題集 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解する。	
	思考・判断・表現	経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学年	学期	単元名	基礎力			思考力				実践力				活動内容・評価規準	
			視野・礼儀(基礎人間的)	思考・実践の材料や根拠となる事象への理解	コミュニケーション能力	想像力・未来を予測する力	課題を発見する力	客観的に物事を見つめる力(メタ認知)	論理的思考力	探究的学習力(批判的思考力・クリエイティブな発想力)	知識の活用	課題を解決する力	課題を切り拓く力(キャリア設計力)		主体的な行動力
三年(基礎力養成期)	一学期	4章 グローバル化が進展する社会 1 国境を越えて広がる世界 2 グローバル化する社会 3 グローバル化と地域経済統合の動き	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 グローバル化について、国際化との違いや、経済成長との関係性を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 経済のグローバル化に伴う、地域経済統合の現状と課題についてわが国と関連付けて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 日本経済の動きをつかみ、今後果たすべき役割について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
	二学期	6章 グローバル化が進展する社会 4 グローバル化と経済発展 5 グローバル化の諸問題 2章 経営のグローバル化 1 多国間企業とグローバル経営 2 企業の海外進出とグローバル経営の確立	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 企業が海外進出目的とプロセスについて学び、これからの企業に期待される役割について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 実際に海外で活躍している企業の事例を取りあげて、その取り組みと今後の課題を発見し、企業の社会的責任や世界との関わりを考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 企業活動のグローバル化について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
三年(思考力養成期)	一学期	9章 経営のグローバル化 3 グローバル経営の現状 4 グローバル経営の課題 5 グローバル化に伴う企業の社会的責任 11章 経済のグローバル化 1 人材のグローバル化 2 財とサービスのグローバル化 3 金融のグローバル化	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 多国間企業とはどのようなものなのか、またグローバル経営について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 物価の変動が社会に及ぼす影響について考察し、課題への対応策を考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 経営・経済のグローバル化について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
	二学期	12章 3章 経済のグローバル化 4 情報のグローバル化 4章 市場と経済 1 需要と供給による市場の理論	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 市場と経済について学び、経済活動の評価・分析の手法や経済政策について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 情報通信技術の進化に伴い、これからの経済がどのように変化し、発展するか考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 グローバル化の動向と課題を踏まえ、経済のグローバル化について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
三年(思考力養成期)	一学期	4章 市場と経済 2 経済成長 3 景気循環とインフレーション 4 経済政策	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 市場メカニズムや物価の変動が社会に及ぼす影響について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 経済活動の基礎となる市場の理論について理解し、各国の経済成長率を比較して、その要因を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 景気循環や経済政策の現状と課題を踏まえ、市場と経済について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
	二学期		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 市場メカニズムや物価の変動が社会に及ぼす影響について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 経済活動の基礎となる市場の理論について理解し、各国の経済成長率を比較して、その要因を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 景気循環や経済政策の現状と課題を踏まえ、市場と経済について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解している。	・基本的な知識の習得を問う単元テスト ・知識の概念的な理解を問う単元テスト ・課題実力検査や定期考査
思考・判断・表現	経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・課題レポート ・グループでの話し合い(発言内容)や発表等 ・単元テスト、課題実力検査、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける議論(参加態度) ・取組の自己評価(目標設定含む)の内容

使用教科書	ビジネス法規 (実教出版)	副教材等	ビジネス法規 準拠問題集 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解する。	
	思考・判断・表現	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を付ける。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力					実践力				活動内容・評価規準		
			方換・礼儀へ基礎力	と異なる・学業力(知識)や模範	コミュニケーション能力	情報収集力	想像力・本業を予測する	課題を見出す力	力客観的に物事を見つめる(メタ認知)	論理的思考力	シグナリテイク・批判的思考	創造する力	情報分析力	情報活用能力		課題を解決する力	主体的な行動力
三年(基礎力養成期)	4・5	第1章 法の概要 (1)ビジネスにおける法の役割 (2)法の体系と解釈・適用															<p>【知識・技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の内情な流れは法によって行われていることが理解できる。 ・権利と義務・物と物権・債権の関係が理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約や物の売買における決まり事に基づき判断が理解できる。 ・時効について判断できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各章ごとの振り返り問題等の取り組み、問題集の取り組みがしっかりなされている。
	6・7	第2章 権利・義務と財産権 (1)権利・義務とその主体 (2)物と物権・債権 (3)知的財産権	○	○													
		第3章 財産権の変動 (1)契約 (2)物の売買 (3)物の賃借 (4)不法行為 (5)時効															
三年(思考力養成期)	9・10	第4章 企業活動と法規 (1)企業活動の主体 (2)株式会社の特徴と機関 (3)資金調達と金融取引 (4)組織再編と清算・再建 (5)競争秩序の確保															<p>【知識・技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業活動の主体が理解できる。 ・株式会社の特徴と機関について理解できる。 ・企業における法令順守の理解・判断ができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紛争における善悪の判断、理解ができる。 ・理解した内容を発表し表現できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各章ごとの振り返り問題等の取り組み、問題集の取り組みがしっかりなされている。
	11・12	第5章 企業責任と法規 (1)法令遵守と説明責任 (2)労働者の保護 (3)消費者の保護 (4)情報の保護	○	○													
		第6章 紛争の解決と予防 (1)紛争の解決 (2)紛争の予防															
三年(実践・判断力養成期)	1	第7章 税と法規 (1)税の種類と法人の納税義務 (2)法人税の申告と納付 (3)消費税の申告と納付	○	○													<p>【知識・技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税についての流れと仕組みが理解できる。 ・法人税の申告と納付について理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税の申告と納付について理解できる。 ・法と経済生活全般について総合的に判断できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各章ごとの振り返り問題等の取り組み、問題集の取り組みがしっかりなされている。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市民生活が法と密接に関連していることが理解できたかの知識を問う小テスト ・単元テストの実施
思考・判断・表現	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて考え、適切に判断し、表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なケースにおいて問題定義やグループでの話し合いや発表等 ・小テストや定期考査 ・単元テストの実施
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートや問題集の提出状況 ・授業態度、発表等の取り組み ・取り組みの自己評価の内容

使用教科書	プログラミング～マクロ言語～ (実教出版)	副教材等	全商情報処理検定模擬試験問題集2級,1級プログラミング (実教出版) 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1級 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	プログラムと情報システム開発に関する知識を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	プログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて思考・判断・表現して、創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学年	学期	月	単元名	基礎力		思考力						実践力				活動内容・評価基準	
				思考・表現力 批判的思考力	コミュニケーション能力	基礎的知識力	基礎的技術力	基礎的知識力	基礎的技術力	基礎的知識力	基礎的技術力	基礎的知識力	基礎的技術力	基礎的知識力	基礎的技術力		
二年 (基礎力養成期)	一学期	4	1 情報システムとプログラミング (1)情報システムの重要性 (2)プログラミング言語の種類と特徴 (3)プログラミングの手順	○												【知識・技術】 ・情報システムとプログラミングの概要についての理解と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・プログラミングの意義と課題について、企業活動の改善と関連付けて見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報システムとプログラミングの概要について自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む。	
		5 6 7	2 ハードウェアとソフトウェア (1)データの表現 (2)ハードウェアの機能と動作 (3)ソフトウェアの体系と役割 (4)アルゴリズムの表現技法 (5)データ構造と制御構造 (6)変数・定数と演算 (7)データ入出力 (8)条件判定、繰り返し処理 (9)配列の利用	○												【知識・技術】 ・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ビジネスに活用できる技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・コンピュータ内部の働きについて考察し、ハードウェアが動作するためのソフトウェアの効果的活用や、企業活動改善の要求分析、科学的根拠に基づいた情報処理を主体的かつ協働的に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コンピュータの基本的な機能と構成やアルゴリズムについて自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発する上でのハードウェアとソフトウェアの効果的活用やアルゴリズムの考察を主体的かつ協働的に取り組む。	
三年 (思考力養成期)	二学期	9 10 11 12	3 プログラムと情報システム開発 (その1) (1)情報システム開発の手法と手順 (2)プロジェクト管理 4 手続き型言語の利用 (1)オブジェクト指向型言語の利用 (2)情報システムの評価と改善 (3)情報システム演習 (Java言語) I 5 情報システム演習 (HTML) I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プログラムと情報システムの開発について自ら学び、企業活動の改善に対する要求を踏まえ、適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
		1	4 プログラムと情報システム開発 (その2) (1)情報システム演習 (Java言語) II (2)情報システム演習 (HTML) II	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解を深めるとともに、関連する技術が向上している。 【思考・判断・表現】 ・企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プログラムと情報システムの開発について自ら学び、企業活動の改善に対する要求を踏まえ、適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	プログラムと情報システム開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・事実に知識の習得を問う単元テスト ・知識の概念的な理解を問う単元テスト ・課題実力検査や定期考査
思考・判断・表現	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・課題レポート ・グループでの話し合い (発言内容) や発表等 ・単元テスト、課題実力検査、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・演習を通して制作したプログラム等の内容 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける話し合い (参加態度) ・取組の自己評価 (目標設定含む) の内容

使用教科書	ネットワーク活用 (実教出版)	副教材等	
学習の到達目標	知識・技術	ビジネスにおけるインターネットの活用についての知識を、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて、思考・判断・表現して、創造的に課題を解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動の改善を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力					実践力				活動内容・評価規準		
			力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	思考・表現の力(基礎)	コミュニケーション能力	情報収集力	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	力発揮・礼儀・礼儀(基礎)		力発揮・礼儀・礼儀(基礎)	
三年(基礎力養成期)	4 5	1 情報通信技術の進歩とビジネス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 情報通信技術の進歩とビジネスの変化を関連付けて理解するとともに、それを利用した新しいビジネス、関連する法規などの基本的な知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ビジネスにおいて情報通信技術を活用することの意義の具体的な説明ができる。また、ビジネスで情報通信技術を活用する際の留意点を理解し、適切な判断をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報通信技術を活用する際に留意すべき法規・モラルなどと、具体的な課題とを関連付けて、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
		2 情報コンテンツの制作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 各種情報コンテンツについて、基礎的な知識を理解し、それらを作成・編集するための基本的な技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 各種情報コンテンツについて、効果的な利用方法や表現方法を判断し、適切に使い分けることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各種情報コンテンツについて、関心をもち、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
三年(思考力養成期)	9 10	3 企業情報の発信とWebデザイン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 Webサイトの構築について実務に即して理解しているとともに、関連する知識と技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 Webサイトに対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、伝達することが必要な情報を表現し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 Webサイトの構築について、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
		4 インターネットと情報セキュリティ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 インターネットと情報セキュリティについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 インターネットを活用する環境の構築と情報セキュリティの確保の方策を考察して実施し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 インターネットと情報セキュリティの確保に、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
三年(実践力養成期)	1	5 電子商取引とビジネス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 電子商取引サイトの制作について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 電子商取引サイトの制作と集客方法について、必要な情報を収集・表現し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 電子商取引サイトの制作の技術の習得や適切な情報発信について、主体的かつ協働的に取り組むことができる。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	ビジネスにおけるインターネットの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・事実的な知識の習得を問う単元テスト ・知識の概念的な理解を問う単元テスト ・定期考査や課題実力考査
思考・判断・表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・課題レポート ・グループでの話し合い(発言内容)や発表等 ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・宿習を通して制作したWebサイト等の内容 ・課題の取組状況と進捗状況 ・授業態度、グループにおける話し合い(参加態度) ・取組の自己評価(目標設定含む)の内容

使用教科書	ビジネス基礎 (実教出版)	副教材等	ビジネス基礎準拠問題集 (実教出版) 全商商業経済検定模擬試験問題集 3級ビジネス基礎 (とうほう)
学習の到達目標	知識・技術	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力		思考力					実践力					活動内容・評価規準	
			情報・礼儀 (基礎人間)	多様な学習力 (知識・技能)	コミュニケーション能力	情報収集力	想像力・表現を予測する力	課題を発見する力	科学的根拠に基づいて課題を追究する力	論理的思考力	資料・資料力 (知識・技能)	判断する力	問題解決する力	協働する力		実践力 (基礎人間)
一学期	4	1章 商業の学習とビジネス 1 いざ、ビジネスの世界へ 2 私たちの社会とビジネス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知技】 商業を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解している。 【思判表】 商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全な発展と関連付けて見いだすことができる。また、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、評価・改善することができる。 【主】 ビジネスの諸活動に広く関心をもち経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けている。
	5	7章 ビジネス計算 1 ビジネス計算の基礎 2 ビジネス計算の応用 2章 ビジネスとコミュニケーション 1 コミュニケーション 2 ビジネスマナー 3 情報の入手と活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知技】 ・取引とビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・ビジネスにおけるコミュニケーションの役割や種類、ビジネスにおける話し方・聞き方について理解している。 【思判表】 ・数の表示の方法と売買に関する各種の計算について活用法と計算結果の妥当性について判断しようとする。 ・基本的なビジネスマナーの意義や場面に応じたビジネスマナーの重要性について考察しようとする。 【主】 ・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。 ・ビジネスにおける情報活用の重要性と情報入手の注意点について関心をもち情報収集や活用を積極的に進めようとしている。
	6 7	3章 経済と流通の基礎 1 経済の仕組みとビジネス 2 経済活動と流通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知技】 生産と消費の隔たりを結びつける流通の働きや仕組みについて様々な資料を選択して活用し、その変化を把握することができる。 【思判表】 流通とは何か、流通が果たす役割について考察するとともに、その役割が、ますます重要になってきている理由を考え、表現しようとする。 【主】 経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
二学期	9 10	4章 さまざまなビジネス 1 ビジネスの種類 2 小売業 3 卸売業 4 物流業 5 金融業 6 情報通信業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知技】 サービスの生産者について基礎的・基本的な知識を身に付け、その活動や動向について理解している。 【思判表】 小売業者・卸売業者・物流業者の活動や動向を様々な角度から考察するとともに概要と変化をとらえ、説明しようとする。 【主】 企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	11 12	5章 企業活動の基礎 1 ビジネスと企業 2 マーケティングの重要性 3 資金調達 4 財務諸表の役割 5 企業活動と税 6 雇用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知技】 企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。 【思判表】 企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考察することができる。 【主】 企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	1 2 3	6章 ビジネスと売買取引 1 売買取引の手順 2 代金決済 8章 身近な地域のビジネス 1 さまざまな地域の魅力と課題 2 地域ビジネスの動向	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知技】 ・売買契約の成立や条件、締結と履行までの流れの基本的な知識を身に付けている。 ・身近な地域のビジネスについて理解している。 【思判表】 ・売買契約の意義について考察するとともに、売買取引の手順を正しく説明できる。 ・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を立案して実施し、評価・改善することができる。 【主】 ・売買契約の成立や条件および締結と履行等について自ら調べたりまとめたりしようとする。 ・身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・基本的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・単元テスト、課題実力検査、定期考査
思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	・課題レポート ・グループでの話し合い (発言内容) や発表等 ・単元テスト、課題実力検査、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける議論 (参加態度) ・取組の自己評価 (目標設定含む) の内容

使用教科書	簿記 新訂版 (TAC出版)	副教材等	日商簿記3級テキスト・トレーニング (TAC出版)
学習の到達目標	知識・技術	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて考え、適切に判断し、表現することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に向けた主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

単元名	基礎力		思考力					実践力					活動内容・評価規準	
	一歩踏み込んだ理解力	方向性のある実践力	問題発見力	問題解決力	問題発見力	問題解決力	問題発見力	問題解決力	問題発見力	問題解決力	問題発見力	問題解決力		
第1編 簿記の基礎 1章 簿記の基礎 2章 資産・負債・純資産 (貸借対照表) 3章 収益・費用と損益計算書 4章 取引と勘定 5章 仕訳帳と総勘定元帳 6章 試算表の作成 7章 精算表 8章 決算 9章 決算 10章 会計帳簿	○	○												【知識・技術】 ・簿記の意味や役割、目的などを理解できる。 ・資産、負債、資本の増減から、また、収益、費用の発生から純利益の計算ができる。 ・簿記の要素を理解し、取引から仕訳に必要な勘定科目を抜きだし、仕訳ができる。 ・主要簿である仕訳帳記入から総勘定元帳への転記、試算表の作成を行い、8前精算表が作成できる。 ・決算手帳から貸借対照表と損益計算書が作成できる。 【思考・判断・表現】 ・各単元の学習内容を企業活動の展開と関連付けて見だし、理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・簿記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と、記録の効果的な活用に向けた主体的かつ協働的に取り組むことができる。
第2編 取引の記録 (その1) 11章 現金と預金の取引 (その1) 12章 商品売買の取引 13章 貸付取引 14章 その他の債権・債務 (その1) 15章 固定資産の取引 (その1) 16章 販売費及び一般管理費 第3編 決算 (その1) 17章 決算整理 (その1) 18章 8前精算表 19章 帳簿決り 第4編 伝票と会計ソフトウェア 20章 伝票式会計と会計ソフトウェア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 【思考・判断・表現】 ・取引 (現金、預金、商品売買、貸付、固定資産) の記載が正しくできる。 ・各補助簿の意味を理解し、作成することができる。 ・決算整理の意味を理解し、8前精算表、貸借対照表と損益計算書を作成することができる。 ・3仮借額を理解し、取引に応じた正しい仕訳ができる。 ・会計ソフトウェアを利用するメリットとデメリットについて、理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取引の記載や決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 ・記録の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に向けた主体的かつ協働的に取り組むことができる。
第5編 決算 (その2) 21章 現金と預金の取引 (その2) 22章 その他の債権・債務 23章 手形 24章 特殊な手形の取引 25章 有価証券 26章 固定資産の取引 (その2) 27章 総資産 (資本) の取引と事業主個人の税金 28章 個人企業の税金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・現金不足、当座借越の発生を理解し、正しい仕訳や記載ができる。 ・クレジット売掛金、電子記録債権・債務、受取商品券の発生を理解し、正しい仕訳や記載ができる。 ・手形の種類や意味を理解し、手形の書き換えや不渡手形等について、正しい仕訳や記載ができる。 ・有価証券の意味を理解し、購入や売却について、正しい仕訳や記載ができる。 ・固定資産の売却について理解し、正しい仕訳や記載ができる。 ・資本の元入れ、追加元入れ、引き出しについて理解し、正しい仕訳や記載ができる。 ・事業主個人の税金や個人企業の税金について理解し、正しい仕訳や記載ができる。 【思考・判断・表現】 ・各取引の記録法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取引の記載について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
第6編 決算 (その2) 29章 決算整理 (その2) 30章 精算表と財務諸表の作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・決算整理を行い、精算表、損益計算書、貸借対照表を理解し、作成することができる。 【思考・判断・表現】 ・決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取引の記載について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
第7編 本支店会計 31章 本支店会計一本支店間の取引 32章 本支店会計一本併用財務諸表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・支店会計の独立の意味を理解し、本支店間の取引、支店相互間の取引の記載ができる。 ・本支店の財務諸表 (損益計算書、貸借対照表) の合併について理解を深め、作成することができる。 【思考・判断・表現】 ・本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本支店会計について自ら学び、適正な本支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
発展 株式会社 33章 株式会社の会計処理 42章 株式会社の税金 ※ 11月から「財務会計1」を履修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・設立と開業の記録、剰余金の処分に関する記録、株式会社の税金の記録について理解を深め、仕訳を行うことができる。 【思考・判断・表現】 ・株式会社の取引の記録法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・株式会社の記録について、自ら学び適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・事実的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
思考・判断・表現	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて考え、適切に判断し、表現することができる。	・課題レポート ・グループでのディスカッションや発表等 ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に向けた主体的かつ協働的に取り組むとしている。	・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループでのディスカッション (参加態度) ・取組の自己評価 (目標設定状況) の内容

使用教科書	財務会計Ⅰ (TAC出版)	副教材等	全商簿記1級会計論点別NEWステップアップ問題集 (TAC出版)
学習の到達目標	知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析し、表現することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学年	学期	単元名	基礎力			思考力				実践力				活動内容・評価規準	
			情報・知識(基礎人間力)	思考・実践の材料や視点となる学力(知識)	情報収集力	想像力・未来を予測する力	課題を見出す力	客観的に物事を見つめる力(メタ認知)	論理的思考力	情報分析力(批判的思考力)	創造する力	問題発見力	問題を解決する力		主体的な行動力
1	1														※1学期は簿記の内容を週6時間で履修
1	2	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業会計と会計公準 第2章 企業会計制度 第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表の概要 第4章 資産の分類と評価 第5章 負債の分類 第6章 現金預金 第7章 金銭債権・電子記録債権・電子記録債務	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※2学期の中旬を目処として簿記4単位とあわせて週6時間で履修 【知識・技術】 財務会計の概要について理解している。 【思考・判断・表現】 財務会計及び関連する法規と基準の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 財務会計の概要について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用により主体的かつ協働的に取り組むことができる。
		第9章 棚卸資産 第10章 有価証券 第11章 有形固定資産 第12章 リース取引 第13章 無形固定資産 第14章 研究開発費とソフトウェア 第15章 引当金 第16章 純資産(その1) 第17章 純資産(その2) 第18章 純資産(その3) 第19章 貸借対照表の作成方法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用により主体的かつ協働的に取り組むことができる。
		第3編 損益計算書 第20章 損益計算書の概要 第21章 損益計算書の基本 第22章 投資の提供と工事契約 第23章 掛け代金の割引 第24章 外貨建取引 第25章 法人税と税効果会計 第26章 損益計算書の作成方法 第27章 その他の財務諸表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 財務諸表の作成に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 財務諸表の作成について自ら学び、適正な財務諸表による適切な会計情報の提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
1	3	総合演習 ※「第4編 財務諸表の活用」及び「発展 連結財務諸表」は2年次10月に財務会計Ⅱで扱う。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 これまでの学習内容を振り返り、理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 これまでの学習内容を振り返り、財務諸表の作成に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 これまでの学習内容を振り返り、適正な財務諸表による適切な会計情報の提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・事実に知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析し、表現することができる。	・課題レポート ・グループでの話し合い(発言内容)や発表等 ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける話し合い(参加態度) ・取組の自己評価(目標設定含む)の内容

使用教科書	ソフトウェア活用 (実教出版)	副教材等	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級 (実教出版) 全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報部門1級 (実教出版) 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1級 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて適切に判断し、表現することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力					実践力				活動内容・評価規準			
			方探訪・礼儀 (基礎人間)	と思考・実力 (学力的) (教材や教材)	コミュニケーション能力	情報収集力	方探訪力・未来を予測する力	課題を見出す力	力 (多角的) に物事を見つめる力	論理的思考力	シナジー (相乗効果) 的発想力	情報分析力 (データ・情報の活用)	創造する力	情報発信力		課題を解決する力	基本計画を切り拓く能力	主体的な行動力
一学期																	1学期は情報処理を週5時間で履修	
二年 (思考力養成期)	9	第1章 企業活動とソフトウェアの活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 第2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報セキュリティの確保	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※2・3学期は情報処理2単位とあわせて週5時間で履修 【知識・技術】 企業活動におけるソフトウェアの活用とその環境について理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ソフトウェアを活用することの意義と課題について、企業活動の改善と関連付けて見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 企業活動におけるソフトウェアの活用とその環境について自ら学び、企業活動の改善に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 【知識・技術】 ネットワークの構成に必要なハードウェア、ソフトウェアとその設定に関連する知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ネットワーク構築に必要なハードウェア、ソフトウェアを適切に選択でき、適切な判断に基づくデータの保護やセキュリティ管理の基準を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ネットワーク構築に必要なハードウェア、ソフトウェアについて、積極的に理解や実習に取り組み、データの保護やセキュリティ管理の基準を身に付けようとする主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	10	第3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 3節 手続きの自動化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、表計算ソフトウェアを活用して、情報を集計・分析するとともに、その結果を表現し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 表計算ソフトウェアの活用について自ら学び、情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	11	第4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化 4節 データベースの構造 5節 SQLの操作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 データベースソフトウェアの活用について実務に即して理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、データベースソフトウェアを活用して情報を管理・提供し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 データベースソフトウェアの活用について自ら学び、情報の効率的な管理と適切な提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	12	第5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 システム開発の基礎 2節 顧客管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 業務処理用ソフトウェアの活用について実務に即して理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、業務処理用ソフトウェアを活用して業務を効率的に処理し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 業務処理用ソフトウェアの活用について自ら学び、業務の効率的な処理に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
三年 (実践力養成期)	1	第6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 3節 情報システムの開発計画	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 情報システムの開発について実務に即して理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を処理する手順を見いだすとともに、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報システムの開発について自ら学び、ビジネスに関する課題を処理する適切な情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・ 事象的な知識の習得を問う小テスト ・ 知識の概念的な理解を問う小テスト ・ 単元テスト、課題実方考査、定期考査
思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて考え適切に判断し、表現している。	・ 課題レポート ・ グループでの話し合い (発言内容) や発表等 ・ 単元テスト、課題実方考査、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ 課題の取組状況と提出状況 ・ 授業態度、グループにおける話し合い (参加態度) ・ 取組の自己評価 (目標設定等) の内容

使用教科書	ビジネス・マネジメント (実教出版)	副教材等	ビジネス・マネジメント準拠問題集 (実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解する。	
	思考・判断・表現	ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力		思考力					実践力					活動内容・評価規準		
			→ 基礎・人間関係力	→ 課題・実践の材料や根拠となる学力 (知識思考・実践力)	情報取捨能力	想像力・未来を予測する力	課題を差見する力	→ 客観的に物事を捉える力	論理的思考力	情報分析力 (→ 批判的思考力)	創造する力	情報発信力	課題を解決する力	未来を切り拓くキャリア設計力		主体的な行動力	→ チームワーク
二年 (基礎力養成期)	4	1章 ビジネスの創造 1 マネジメントとは何か 2 ビジネス・マネジメントとは															【加技】『ビジネス・マネジメント』は、新しいビジネスの創造という活動を軸にして、さまざまな科目と相互に関連する総合的な科目であることを理解している。 ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解している。 【思判表】マネジメントの意義と課題について、ビジネスの適切な展開と関連付けて考えている。 【主】ビジネスにおけるマネジメントについて自ら学び、企業を取り巻く環境を踏まえ、マネジメントに主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	6																
	7	2章 ビジネスの組織化 1 組織のマネジメント 2 分業と買収 3 組織の設計 4 組織内部のマネジメント 5 取引関係のマネジメント 実習3 組織設計															
二年 (思考力養成期)	9	3章 経営資源のマネジメント 1 財務的資源のマネジメント 2 人的資源のマネジメント 3 物的資源のマネジメント 4 情報的資源のマネジメント 実習4 経営資源の活用 実習5 財務分析															【加技】経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解している。 【思判表】経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を立案して実施し、評価・改善をおこなっている。 【主】経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用を主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	10																
	11	4章 ビジネスの改革 1 ビジネスの拡大 2 多角化の動機 3 多角化企業のマネジメント 4 事業の転換 実習6 長寿企業調査															
二年 (実践力養成期)	1	5章 ビジネスと社会 1 社会における企業 2 企業への支援 3 企業の責任 4 企業への牽制 実習7 マネジメントと社会 実習8 SDGs活用 実習9 新規事業計画															【加技】企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて理解している。 【思判表】企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を立案して実施し、評価・改善をおこなっている。 【主】企業の秩序と責任について自ら学び、企業の秩序を維持し、責任を果たすことに主体的かつ協働的に取り組んでいる。
	2																
	3																
			評価の観点内容												評価方法		
知識・技術			ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解している。												・基本的な知識の習得を問う単元テスト ・知識の概念的な理解と問う単元テスト ・定期考査や課題実力考査		
思考・判断・表現			ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。												・課題レポート ・グループでの話し合い (発言内容) や発表等 ・単元テスト、定期考査、課題実力考査		
主体的に学習に取り組む態度			ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。												・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける議論 (参加態度) ・取組の自己評価 (目標設定率?) の内容		

使用教科書	原価計算 (TAC出版)	副教材等	全商原価計算論点別ステップアップ問題集(TAC出版) 全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級原価計算(実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる物として、課題に対処することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学年	学期	月	単元名	基礎力			思考力					実践力			活動内容・評価規準	
				概算・見積(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)	原価計算(基礎力)		原価計算(基礎力)
二年(応用力養成期)	一学期	7	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記の勘定連絡 第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費 第5章 労務費 第6章 経費	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※4月～6月は、「財務会計Ⅱ」の内容を週6時間で履修 【知識・技術】材料費・労務費・経費の消費高を計算及び控除に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。また、予定価格法を用いる理由など合理的な原価計算の考え方を理解している。 【思判断】なぜ、予定価格を用いるのか、資金の支払いと消費はどう違うのかなど合理的な記帳法はどのようなものなのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】原価の費目別計算について関心をもち、自ら進んでまとめたり、問題演習に取り組んだりする。また、疑問点については粘り強く調べたり、積極的に質問したりする態度が見られる。
		9 10	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算と減損・仕損じの発生など	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】原価の部門別計算と製品別計算に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。また、各種原価計算の方法の特徴について理解している。 【思判断】なぜ、製造間接費は予定配賦するのか、工程別計算を行うのかなどについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】原価の部門別計算と製品別計算について関心をもち、自ら進んでまとめたり、問題演習に意欲的に取り組んだりしている。
二年(応用力養成期)	二学期	11 12	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社工場間の取引	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】製品の完成と販売及び決算と本社工場間の取引の記帳に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。また、製造業の決算の特徴について理解している。 【思判断】製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本文店間の取引と比較して考えたりする。 【主】製品の完成時及び販売時の手続きや処理法、製造業の決算の特徴、さらに本社工場間の取引の記帳について関心をもち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組んだりする。	
		1 2 3	第5編 標準原価計算 第14章 標準原価計算(その1) 第15章 標準原価計算(その2) 第6編 直接原価計算 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】標準原価計算や直接原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 【思判断】なぜ、原価標準を設定するのか、差異分析により何がわかるのか、直接原価計算においては、なぜ変動費だけで計算するのかなど原価管理や利益計画について理解しようとしている。 【主】標準原価計算や直接原価計算を利用した原価情報の活用について関心をもち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組んだりする。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・実践的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
思考・判断・表現	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる物として科学的根拠に基づいて創造的に課題に対処する力を身に付けている。	・課題レポート ・グループでのディスカッションや発表等 ・小テスト、単元テスト、定期考査、課題実力考査
主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法理と基準を適切に活用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用により主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ノートの記入状況 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループでのディスカッション(参加態度) ・取組の自己評価(目標設定含む)の内容

使用教科書	プログラミング〜マクロ言語〜(実教出版) (最新情報処理(実教出版))	副教材等	実教出版 全商情報処理検定模擬試験問題集2級, 1級プログラミング 実教出版 全商ビジネス実務検定模擬試験問題集1級
学習の到達目標	知識・技術	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力			実践力			活動内容・評価規準	
			挨拶・礼儀(基礎人間力)	思考・実践の材料や根拠となる学力(知識)	情報処理能力	想像力・本質を見極める力	客観的に物事を見つめる力(メタ認知)	創造的思考力	情報分析力(批判的思考力)	課題を解決する力	未知を切り拓くキャリア設計力		協働力(チームワーク)
一学期	4	0 ビジネス文書の作成・応用 (学校裁量)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・ビジネス文書作成に関する知識と技術を習得し、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・基本的な社内文書や社外文書の作成に興味を持ち、目的に応じた文書を適切に選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成について自ら学び、効果的な活用により主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	5	1 情報システムとプログラミング (1)情報システムの重要性 (2)プログラミング言語の種類と特徴 (3)プログラミングの手順	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・情報システムとプログラミングの概要についての理解と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・プログラミングの意義と理解について、企業活動の改善と関連付けて見だすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報システムとプログラミングの概要について自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む。
	6	2 ハードウェアとソフトウェア (その1) (1)データの表現 (2)ハードウェアの機能と動作 (3)ソフトウェアの体系と役割 (4)アルゴリズムの表現技法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ビジネスに活用できる技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・コンピュータ内部の働きについて考察し、ハードウェアが動作するためのソフトウェアの効果的な活用方法や、企業活動改善の要求分析、科学的根拠に基づいた情報処理を主体的かつ協働的に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コンピュータの基本的な機能と構成やアルゴリズムについて自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発する上でハードウェアとソフトウェアの効果的な活用やアルゴリズムの考案を主体的かつ協働的に取り組む。
二学期	9	2 ハードウェアとソフトウェア (その2) (7)データ入出力 (8)条件判定、繰り返し処理 (9)配列の利用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プログラムと情報システムの開発について自ら学び、企業活動の改善に対する要求を踏まえ、適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	10	3 プログラムと情報システム開発 (その1) (1)情報システム開発の手順と手順	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プログラムと情報システムの開発について自ら学び、企業活動の改善に対する要求を踏まえ、適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	11	2 プロジェクト管理 (3)手帳型管理簿の利用 (4)オブジェクト指向型言語の利用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プログラムと情報システムの開発について自ら学び、企業活動の改善に対する要求を踏まえ、適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
三学期	1	4 プログラムと情報システム開発 (その2)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プログラムと情報システムの開発について自ら学び、企業活動の改善に対する要求を踏まえ、適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	3	(1)情報システム演習 (マクロ言語) (2)情報システム演習 (HTML)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【知識・技術】 ・プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プログラムと情報システムの開発について自ら学び、企業活動の改善に対する要求を踏まえ、適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	プログラムと情報システム開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	・事実的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・單元テスト ・課題実力検査や定期検査
思考・判断・表現	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・課題レポート ・グループでの話し合い(発言内容)や発表等 ・小テスト、單元テスト、課題実力検査、定期検査
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとしている。	・演習を通して制作したプログラム等の内容 ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける話し合い(参加態度) ・取組の自己評価(目標設定含む)の内容

使用教科書		副教材等	総合実践「同時同業法を中心として」三訂版(実教出版)
学習の到達目標	知識・技術	商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力					実践力					活動内容・評価規準			
			力挨拶・礼儀(基礎人間)	思考・判断(基礎)	コミュニケーション能力	情報収集力	想像力・本質を予測する	課題を発見する力	力を観的に必要事項を見つめる	論理的思考力	シブ(クリティカル)思考力	判断力	創造する力	問題発見力	課題を解決する力		読解力	主体的な行動力	協働力(チームワーク)
三年(実践力養成期) 一学期	4 5	総合実践の基礎 ・総合実践の学習について ・対応の心得	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や適切な方法、業務についての基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 様々な場面における適切なコミュニケーション方法や合理的な業務遂行方法を、基礎的な知識をもとに自ら考え、判断し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 総合実践の基礎的・基本的な事項について、自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
	6 7	・通信文書の作成 ・代金の支払い																	
三年(実践力養成期) 二学期	9 10	基本取引 ・取引の仕組み ・仕入取引 ・販売取引 ・取引のまとめ(会計処理)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 ビジネスにおける各種取引について、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ビジネスにおける各種取引について、実務に即して理解し、総合的に思考・判断・表現し、改善方法を考える。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスの実務について自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>
	11 12																		
三年(実践力養成期) 三学期	1	取引演習 ・取引の仕組み ・総合取引演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 ビジネスにおける取引について、総合的に理解しており、関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ビジネスの実務における課題を発見し、根拠に基づき課題への対応策を考案し、改善している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスの実務について自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・単元テスト・定期考査
思考・判断・表現	ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・授業、演習への取り組み ・単元テスト・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業、演習への取り組み ・営業日誌の記入

使用教科書	ネットワーク活用 (実教出版)	副教材等	
学習の到達目標	知識・技術	ビジネスにおけるインターネットの活用についての知識を、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて、思考・判断・表現して、創造的に課題を解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動の改善を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用について主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力				実践力					活動内容・評価規準				
			力挨拶・礼儀(基礎) - 基礎人間	と思考・学方(実践)の材料や根拠	コミュニケーション能力	情報取能力	力想像力・未来を予測する	課題を発見する力	力客観的に物事を見つめる	論理的思考力	シグナル(分析)力(批判的)思考	創造する力	情報集能力	課題を解決する力		読解力	主体的な行動力	「チームワーク」	
三年(基礎力養成期)	4 5	1 情報通信技術の進歩とビジネス	○	○	○	○													【知識・技術】 情報通信技術の進歩とビジネスの変化を関連付けて理解するとともに、それを利用した新しいビジネス、関連する法規などの基本的な知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ビジネスにおいて情報技術を活用することの意義の具体的な説明ができる。また、ビジネスで情報通信技術を活用する際の留意点を理解し、適切な判断をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報通信技術を活用する際に留意すべき法規・モデルなどと、具体的な課題とを関連付けて、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	6 7	2 情報コンテンツの制作	○	○	○	○													【知識・技術】 各種情報コンテンツについて、基礎的な知識を理解し、それらを作成・編集するための基本的な技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 各種情報コンテンツについて、効果的な利用方法や表現方法を判断し、適切に使い分けることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 各種情報コンテンツについて、関心をもち、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
三年(思考力養成期)	9 10	3 企業情報の発信とWebデザイン		○															【知識・技術】 Webサイトの構築について実務に即して理解しているとともに、関連する知識と技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 Webサイトに対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、伝達することが必要な情報を表現し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 Webサイトの構築について、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	11 12	4 インターネットと情報セキュリティ		○															【知識・技術】 インターネットと情報セキュリティについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 インターネットを活用する環境構築と情報セキュリティの確保の方策を立案して実施し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 インターネットと情報セキュリティの確保に、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
三年(実践力養成期)	1	5 電子商取引とビジネス		○															【知識・技術】 電子商取引サイトの制作について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思考・判断・表現】 電子商取引サイトの制作と集客方法について、必要な情報を収集・表現し、評価・改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 電子商取引サイトの制作の技術の習得や適切な情報発信について、主体的かつ協働的に取り組むことができる。

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	ビジネスにおけるインターネットの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・事実的な知識の習得を問う単元テスト ・知識の概念的な理解を問う単元テスト ・定期考査や課題実力考査
思考・判断・表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・課題レポート ・グループでの話し合い(発言内容)や発表等 ・単元テスト、定期考査、課題実力考査
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・練習を通して制作したWebサイト等の内容 ・課題の取組状況と進捗状況 ・授業態度、グループにおける話し合い(参加態度) ・取組の自己評価(目標設定含む)の内容

使用教科書	ネットワーク管理 (実教出版)	副教材等	
学習の到達目標	知識・技術	情報資産を共有し、保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	
	思考・判断・表現	情報資産を共有し、保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し、保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

学期	月	単元名	基礎力			思考力				実践力				活動内容・評価規準	
			力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	思 考 力 (基礎 学力)	情 報 取 扱 力	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)	力 格 形・礼 儀(基礎 人間)		力 格 形・礼 儀(基礎 人間)
三年(基礎力養成期)	4 5	1 企業活動と情報通信ネットワーク (1) 情報資産の共有の重要性 (2) 情報通信ネットワークの形態と通信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 企業活動と情報通信ネットワークとの関わり及び情報通信ネットワークの概要について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 情報通信ネットワークの意義と課題について、情報資産の共有及び活用と関連付けて見いだすことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 企業活動と情報通信ネットワークとの関わり及び情報通信ネットワークの概要について自ら学び、情報を共有し保護する適切な環境の提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p>
		2 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 (1) 情報通信ネットワークの設計方法 (2) 情報通信ネットワークのしくみと通信方法 (3) ネットワーク機器 (4) 情報通信ネットワークの構築方法 (5) 情報通信ネットワークの運用と障害対策 (6) システム監査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三年(思考力養成期)	9 10	3 情報セキュリティ管理 (1) 情報セキュリティ管理の目的と重要性 (2) 人的対策 (3) 技術的対策 (4) 物理的対策	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>【知識・技術】 情報セキュリティ管理について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報セキュリティ管理に関する計画を立案して実施し、評価・改善できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 情報セキュリティ管理について自ら学び、情報資産の保護に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p>
		1													

	評価の観点内容	評価方法
知識・技術	情報資産を共有し保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事実的な知識の習得を問う小テスト ・知識の概念的な理解を問う小テスト ・単元テスト・小テスト・課題実力考査・定期考査
思考・判断・表現	情報資産を共有し保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート ・グループでの話し合い(発言内容)や発表等 ・単元テスト・小テスト・課題実力考査・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の取組状況と提出状況 ・授業態度、グループにおける話し合い(参加態度) ・取組の自己評価(目標設定含む)の内容